

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

1 学校教育目標	教育活動のあらゆる場をとおして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな工業技術者を育成する。 (1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的な生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ①工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を持った生徒 ②地域社会から信頼され、新たな価値を生み出し、未来を拓く創造性あふれる生徒 ③多様な人格を尊重し、豊かな心と健やかな身体を持った生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ①就職や進学に対応した柔軟な選択科目や習熟度に合わせた少人数授業を展開し、タブレット端末などを活用する生徒一人ひとりに寄り添う支援の推進 ②専門的な知識や技術の習得、様々な資格取得のサポートをはじめ、インターンシップ・企業見学を通して、充実したキャリア教育・進路支援の実施 ③地域社会と連携した学校行事、活発な部活動を通して、豊かな人間性や社会性の育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ①ものづくりに興味・関心を持ち、身につけた知識や技術を産業界で活かしたい生徒 ②高校生活に明確な目標を持ち、学習をはじめ資格取得、部活動など学校生活に意欲的に取り組み、自ら成長しようとする生徒 ③規範意識が高く、規則正しい学校生活ができる生徒
3 現状の分析	○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、学校祭や修学旅行などの学校行事がコロナ禍以前に戻すことができ、生徒の教育活動を有意義に実施することができた。 ○生徒会による校則の見直しやMSリーダーズによる地域貢献活動を積極的に行う一方で、制服着こなしセミナーや交通安全講話、消費生活講話などの啓発活動も積極的に実施している。 ○工業科における各種大会、コンテスト、資格試験取得に向けて意欲的に取り組み、特にものづくりコンテストでは県大会において3つの部門において最優秀賞を得ることができた。 ○昨年度に比較して転学者数が大幅に減少した。心のアンケートやいじめアンケートについては、その結果を踏まえ個々の生徒に対してきめ細かな支援を実施できた。 ▲アンケート結果によると、授業の教え方や分かりやすさという点において肯定的な評価をしていない生徒の割合が昨年度より18%も増加した。 ▲文化祭などの学校行事以外においては、生徒会活動が活発であると言えない状況にある。 ▲校内の学習環境がきれいであり、清掃が行き届いていると捉えている生徒の割合が71%と決して高い割合とは言えない。		
4 学校の抱える課題	・基礎学力の定着を念頭に、多様化する生徒に対してICT機器を積極的に活用した効果的な指導方法を作成するとともに、全職員が共通理解を図りながら連携して指導を行っていく。 ・本校志願者が入学定員を満たさない現状やものづくりコンテストやマイコンカーラリーなどの各種大会へ参加する生徒が減少傾向にあることから、本校で工業を学ぶ魅力をこれまで以上に地域や中学生に発信していく。 ・クラス活動や生徒会活動を活発化にすることにより、日常の学校生活を充実化させ生徒の自立心、自律心を育てていく。		

5 今年度の具体的な重点目標		◇工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を育成する。 ◇基本的生活習慣が身につく、豊かな心と健やかな身体をする ◇産業界から信頼される豊かな人間性や社会性に富んだ人材を育成する。				
年 度 目 標			年 度 末 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
教育課程 学習指導	①基礎基本の徹底した定着	①基礎力診断テストの実施	①基礎力診断テストの分析	A	○基礎学力向上のための朝 学習の実施 ▲タブレット活用ガイド ンスの実施	A B C D
	②授業改善に向けた研修の充実	②ICTを活用した授業の充実	②アンケートと研修の実施	B		
	③ICT機器の活用	③適切なタブレットの利用	③タブレットの利用状況	B		
進路指導	①進路ガイダンス機能の充実	①3年生の進路実現達成	①外部講師の協力を得て3回以上実施	A	○進路目標達成に向けた3 年間を見通したキャリア教 育の充実 ▲キャリアパスポートの充 実	B C D
	②主体的な進路選択意識の醸成	②就職・進学活動の積極性	②進路希望調査の実施	B		
	③キャリア教育の推進	③キャリアパスポートの充実	③ポートフォリオの実施と整理・保管	B		
生徒支援 職業教育と心の 育成	①基本的生活習慣の構築	①講話を通じた啓発活動の実 施	①制服着こなしセミナーをはじめとす る各種講話の実施	A	○講話等において社会性や 自立力を高める指導 ○生徒の個別相談の機会を 増加 ▲遅刻者数の改善	
	②教育相談の充実	②外部専門家との連携	②カウンセラーの効果的な活用	B		
	③自他の生命の尊重	③いじめ未然防止と早期発見	③校内いじめ防止対策体制を強化	B		

13 来年度に向けての改善方策案

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月19日

- ・課題研究など工業高校の特色ある実践を地域や地元中学校に広く発信していく必要がある。
- ・産学連携や地域とのつながりを今後もより一層強化し、地域や地元産業の発展に貢献できる人材の育成に努めてほしい。
- ・生徒を取り巻く環境の変化や生徒自身が多様化している中で、学校生活に適応できない生徒に対しては組織的に対応するとともに、外部関係機関とも連携を図りながら専門的な見地から指導支援することが求められる。
- ・中長期インターンシップを中心にキャリア教育を推進しており、地元をはじめとする多くの企業からの求人もあり、生徒の進路実現においてその責務を果たしている。
- ・今年度から始めた「学校満足度アンケート」は、是非来年度以降も継続してほしい。授業を中心とした学校生活の改善が図られ生徒の満足度が上がれば、入学希望者数の増加も期待できる。

- ・基礎学力向上に向けたICT機器を効果的に活用した研究授業の実施
- ・生徒の実態を踏まえた分かりやすい授業の実践
- ・地域や地元企業とのさらなる連携強化により教育活動と進路支援の充実
- ・遅刻や欠席数については、統計データや聞き取りにより原因を分析し改善に向けた取組を実施
- ・外部機関との連携による多様な生徒への対応と校内の教育支援体制の強化
- ・本校の工業教育の特色や魅力を地域社会や中学校へ積極的に発信
- ・学習環境の整備と美化活動の充実
- ・学校行事や日常の学校生活における生徒主体の活動を積極的に推進。
- ・「学習満足度アンケート」の結果を分析し、授業や学校生活、進路それぞれについて具体的な目標と実践内容を設定し、PDCAサイクルにより改善を図る。